



学校だより

令和 2年 6月 1日
練馬区立田柄第二小学校
校長 谷田 弘子

HP <http://www.tagara2-e.nerima-ky.ed.jp> e-mail info@tagara2-e.nerima-ky.ed.jp

教育目標: 元気な子ども・考える子ども・思いやる子ども

No.510

「読解力」を育てるために

副校長 小安 裕子

新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休業が5月31日までとなり、保護者の皆様には、子供たちがご家庭で健康・安全に過ごせるように、たくさんのご協力をいただきましたこと、心より感謝いたします。本日、学校が再開し、元気な田柄第二小学校の子供たちとゆっくり対面することができ、とても嬉しく感じています。これからも保護者の皆様、地域の皆様のご協力をいただきながら、信頼され愛される学校作りに全力で取り組んでいきます。今後共、ご理解・ご協力の程よろしくお願ひします。

この休校の期間中、新井紀子さんの著書に触れる機会がありました。新井紀子さんは、2011年から人工知能プロジェクト「東ロボくん」に問題を解かせ、東大合格レベルまで引き上げることができるかの検証をしてきた数学者です。著書の「AI vs教科書の読めない子供たち」は人気のある本で、読まれた方もいらっしゃると思います。新井氏はその著書の中で、近い未来にAIが得意としている部分では、かなりの仕事が機械に奪われてしまうと書かれています。つまり、近い将来、多くの仕事がAIにとってかわられることが予想されているということです。しかし、全部の仕事がなくなるわけではなく、残る仕事もあります。残る仕事とAIに変わられる仕事。どうやら残る仕事は、コミュニケーション能力や理解力、常識や柔軟な判断力が必要な仕事ということのようです。そして、中でも新井氏が最も重要視しているのが「読解力」です。

私は以前、ある中学校に国語の研究授業を見に行きました。中学3年生の国語の授業という

ことで、とても難解な説明文の学習をしていました。私が見つけた一人の女子生徒は高い理解力があり、周りの友達から一目置かれるような生徒でした。先生の発問に対してすぐに答えを考え、すらすらとノートに文字で表現し、進んで手を挙げ発言するような姿もたくさん見られました。しかし、状況が一変したのは先生が次の発問をした時です。先生は黒板にたくさんの図を示して「書いてあることを表している図をこの中から選びなさい。」と話しました。その発問を受けて、女子生徒は手を止めました。そして一言、小さな声で「難しい。」と呟いたのです。それまで文字を通して理解していたかのように見えたその生徒にとって「文字で書いてあること」と「示された図」が同じ内容であることを判断することはとても困難な様子でした。この力こそが、新井氏が「イメージ同定」と呼んでいる「読解力」の一つです。「イメージ同定」は、文章と図形やグラフを比べて、内容が一致しているかどうかを認識する能力で、AIにはなかなか真似できないと考えられている知的処理です。「AIにできないことができる」人材となるためには、「イメージ同定」を含めた確かな「読解力」を身に付ける必要があります。

今年度の田柄第二小学校の校内研究のテーマは「読解力」です。先程お示しした「イメージ同定」には小学校低学年のうちから少しずつ取り組むことができます。田柄第二小学校の子供たちが未来を切り拓いていけるような確かな「読解力」を獲得できるよう、全教職員で試行錯誤しながら精一杯の力で取り組んでいきます。

6月生活目標「学校のきまりをたしかめよう」

学校に元気な子供たちの声と笑顔が戻ってきました。《3つの「密」を避ける/手洗い・咳エチケットの徹底/マスクの着用》等の対策を行い、感染リスクを減らす努力を続け教育活動を再開します。みんなが楽しく生活するためには、一人一人が学校のきまりを守ることが大切です。今月は、「新しい生活様式」のもと学校のきまりを子供たちと確認しながら、どうすれば気持ちよく生活できるかを考えていきたいと思ひます。